

両病院のあり方については、「両病院を統合し、新用地に新病院を整備する」ことが最も望ましい。

1 調整会議等での主な意見

- 病床数の検討にあたっては、両病院の現在の 1 日あたりの入院患者数 440 人（地域包括ケア除く）がスタートになるのではないかと。
- 今後高齢者人口が増加するが、急性期の患者はそれ程増加しないのではないかと。
- 高齢化に伴い増加する循環器系疾患は、大半が慢性心不全の増加であり増床の必要はない。また、兵庫医大等もあるなかで心臓血管外科の新設は必要ない。
- 必要病床数算定の前提として、病床利用率 85% は低いのではないかと。
- スケジュールありきではなく、調整会議の意見を十分聴いて進めていただきたい。
- 高額医療機器の整備については、地域の医療機関と機能が重複（過剰配置）しないように調整する必要がある

2 新病院の規模・診療機能等検討の考え方

(1) あり方検討委員会からの報告

- 高度専門、高度急性期の病院が阪神南部に集中しているため、阪神北部も含めた圏域全体をカバーできるような医療提供体制、連携のあり方を考える必要がある。
- 将来は総人口が減少する中でも入院患者数は増加し、特に循環器系、呼吸器系疾患は顕著に増加する見込みであることから、対策が必要である。また、今後ますます 75 歳以上の高齢者の人口割合が高まるため、救急対応（特に 2 次、3 次救急）も含めた医療提供のあり方を考える必要がある。
- 両病院とも急性期・総合型病院として不足している診療科（県：心臓血管外科、呼吸器内科・外科、市：脳神経外科、産科）があり、今後の高齢者人口の増加や疾患構造の変化を見据え、合併症等に対応できる診療体制を整える必要がある。特に、今後患者の増加が見込まれる循環器系、呼吸器系の体制の充実が必要である。
- 県立西宮病院では、救命救急センターの機関指定を受けているが心臓血管外科が未設置で胸痛の救急患者等を受入れられないため、体制整備が必要である。
- 今後進展が期待される再生医療、ゲノム医療などの先進医療に対応できる病院を目指す必要がある。
- 若手医師育成の基幹病院としての役割を担うことが必要である。
- 両病院は、診療科の不足、施設の老朽化、防災機能が脆弱などの課題を抱えており、現状のままではこれらの課題解決や今後の医療環境の変化へ対応することが困難。

(2) 検討にあたっての基本的な考え方

- ・ 病床規模については、今後の患者数増加及び在院日数の短縮を踏まえ必要な病床数とする。
- ・ 循環器疾患や呼吸器疾患に対する機能強化は、救急医療体制の充実、災害医療の強化、医師等の育成のためにも必要である。
- ・ 今後、再生医療等が実用化される可能性があり、不採算部門と想定されるが、患者にとってメリットが大きい先進医療については公立病院の役割として検討する。
- ・ 機能強化を図る分野については、合併症を有する患者などを中心に、民間病院との役割分担を踏まえる。

3 病床規模の考え方について

(1) 両病院の H30 (2018) 年度延入院患者数

下表のとおり、両病院の地域包括ケア病棟を除く 1 日あたりの入院患者数は、440 人、年間の延べ入院患者数は、160,702 人となる。

病院名	稼働病床数	病床稼働率	1 日あたり入院患者数	延入院患者数
県立西宮病院	400 床	86.1%	344 人	125,721 人
市立中央病院	193 床 (144 床)	66.5% (66.5%)	128 人 (96 人)	46,870 人 (34,981 人)
計	593 床 (544 床)	79.7% (80.9%)	472 人 (440 人)	172,591 人 (160,702 人)

※ () は地域包括ケア病棟除き

(2) 将来推計人口について

75歳以上の人口を細分化した場合、次表のとおり、85歳以上の人口増加率が大きい。

なお、新病院の病床数算定にあたっては、現行の両病院の患者の性・年齢・居住地別の数に今後の人口動態を掛け合わせているため、今回の推計ではいずれの年代においても、人口に占める両病院の入院患者数割合は変わらない。

【兵庫県】 (単位:人)

区分	2015年①	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年②	②/①
0~14歳	710,298	661,563	608,288	563,409	525,144	499,853	474,469	66.8%
15~64歳	3,322,004	3,174,864	3,064,176	2,916,530	2,725,857	2,472,326	2,293,740	69.0%
65~74歳	797,390	773,609	649,324	631,827	688,929	767,201	733,410	92.0%
75~84歳	497,995	565,385	667,805	648,869	548,664	541,533	595,990	119.7%
85歳以上	207,113	267,803	316,490	378,460	460,184	461,734	434,890	210.0%
合計	5,534,800	5,443,224	5,306,083	5,139,095	4,948,778	4,742,647	4,532,499	81.9%

【旧阪神南圏域】 (単位:人)

区分	2015年①	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年②	②/①
0~14歳	130,943	121,011	110,946	103,531	97,476	94,120	90,897	69.4%
15~64歳	637,617	621,432	609,559	584,629	546,634	497,544	465,761	73.0%
65~74歳	144,566	137,457	114,878	119,032	140,309	160,558	151,964	105.1%
75~84歳	89,474	103,464	121,499	115,815	97,710	102,457	121,502	135.8%
85歳以上	33,163	44,003	54,193	65,649	80,055	78,860	74,532	224.7%
合計	1,035,763	1,027,367	1,011,075	988,656	962,184	933,539	904,656	87.3%

【西宮市】 (単位:人)

区分	2015年①	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年②	②/①
0~14歳	67,664	62,163	56,798	52,983	49,861	48,228	46,756	69.1%
15~64歳	305,609	300,715	295,077	282,264	263,508	240,044	225,201	73.7%
65~74歳	62,391	61,919	53,469	57,081	67,962	77,659	73,251	117.4%
75~84歳	37,623	44,158	54,297	53,714	46,798	50,260	59,946	159.3%
85歳以上	14,563	19,531	24,071	29,481	37,204	37,504	36,324	249.4%
合計	487,850	488,486	483,712	475,523	465,333	453,695	441,478	90.5%

(3) シナリオAにおける必要病床数の算出

① シナリオAのベースとなるH30(2018)年度延入院患者数

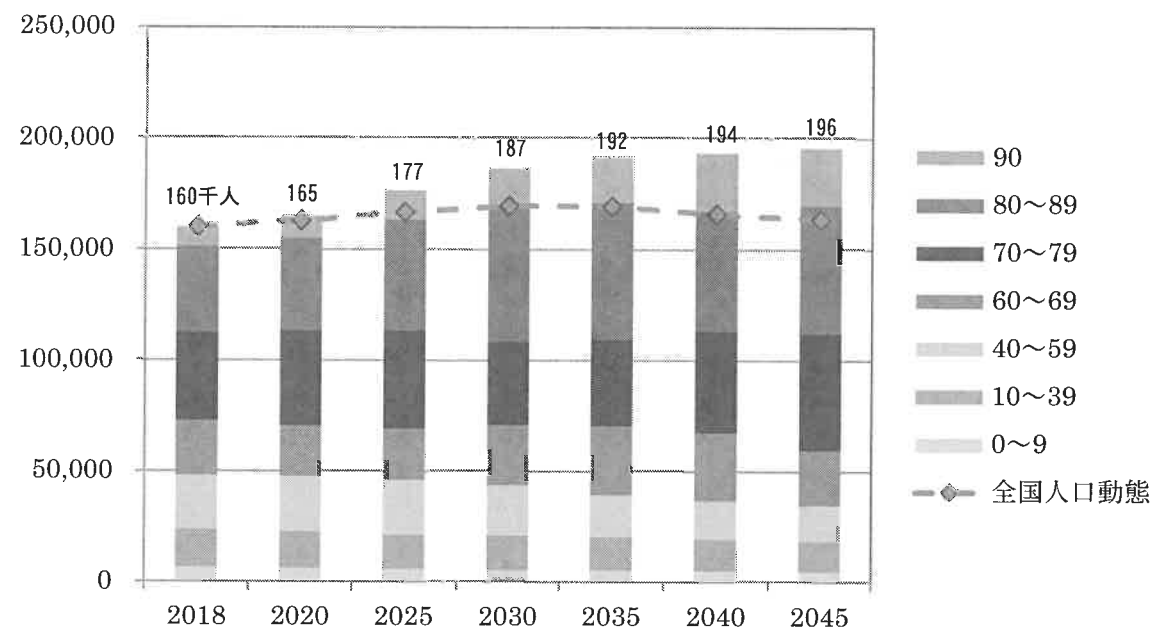
シナリオAのベースとなる将来の入院患者数は、H30に両病院に入院している患者の性、年齢、居住地別を把握できるDPC調査データの退院患者数データを用いた。

H30(2018)年度延入院患者数 : 160,099人

これに、居住地毎の人口動態(性、年齢別)を掛け合わせて将来延入院患者数を推計した。その結果、全国人口動態による患者数に比べ大幅に増加が見込まれる。

なお、この患者数には地域包括ケア病棟の患者が含まれていない。

〈将来延患者数推移予測〉



② シナリオAにおける必要病床数の具体的な算出方法

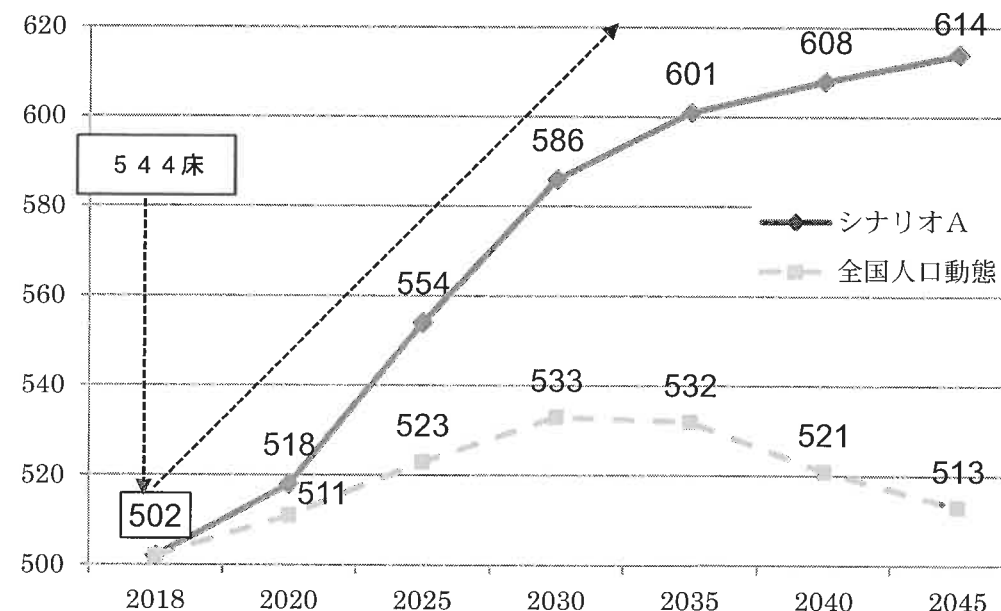
①の退院患者数データを用いた延入院患者数には、前年度からの入院患者が平年より多く含まれているため、病床数の算定にあたってはその分を補正したうえで、病床利用率を85%と想定し算出。

(計算式)

$$2018年度 \quad 160,099人 \times 0.973(補正值) \div 365日 \times 100/85 = 502床$$

2018年度の必要病床数502床を患者の居住地毎の人口動態を考慮することにより、2045年には必要病床数は約614床まで増加すると見込んだ。

〈将来推計延入院患者数に対する必要病床数〉



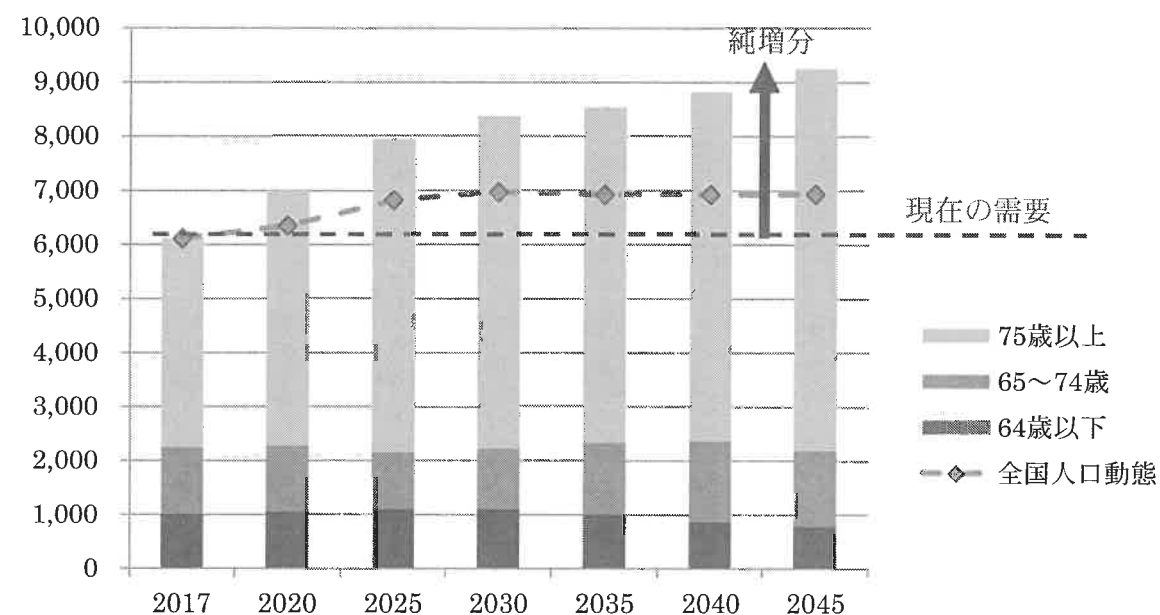
(4) シナリオCにおける必要病床数の算出

西宮市国保・後期高齢者のデータ、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口、厚生労働省H29患者調査データをもとに、循環器系疾患及び肺がんの年間新規入院患者数推移を推計。

いずれも、全国人口動態による患者数に比べ大幅な増加が見込まれる。

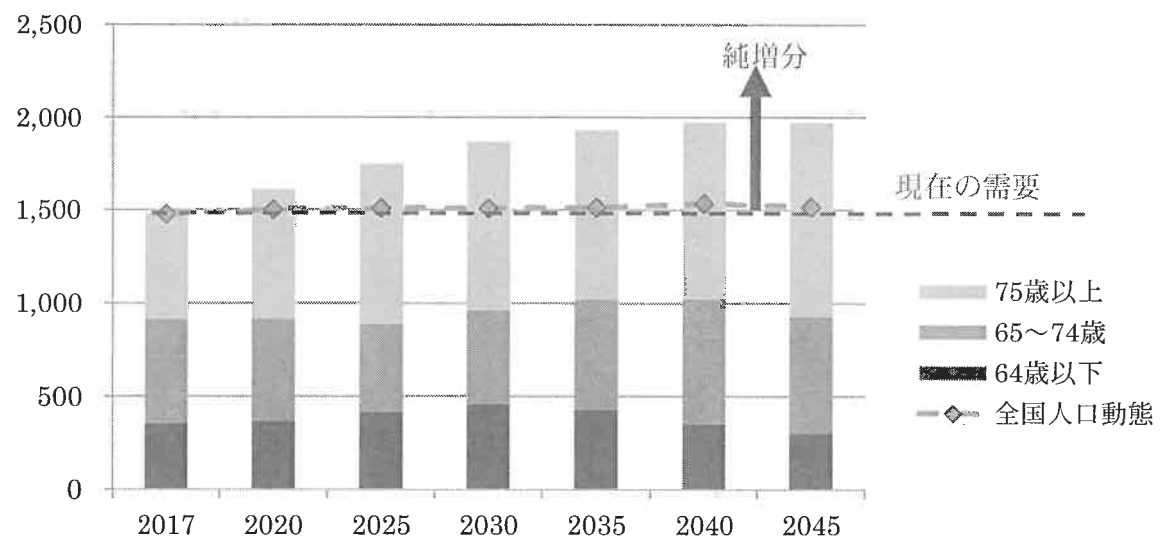
〈循環器系疾患〉

シナリオCでは、2045年には年間約3,100人の新規入院患者の増加が見込まれることに対し、全国人口動態では年間約820人の増加に留まると見込まれる。



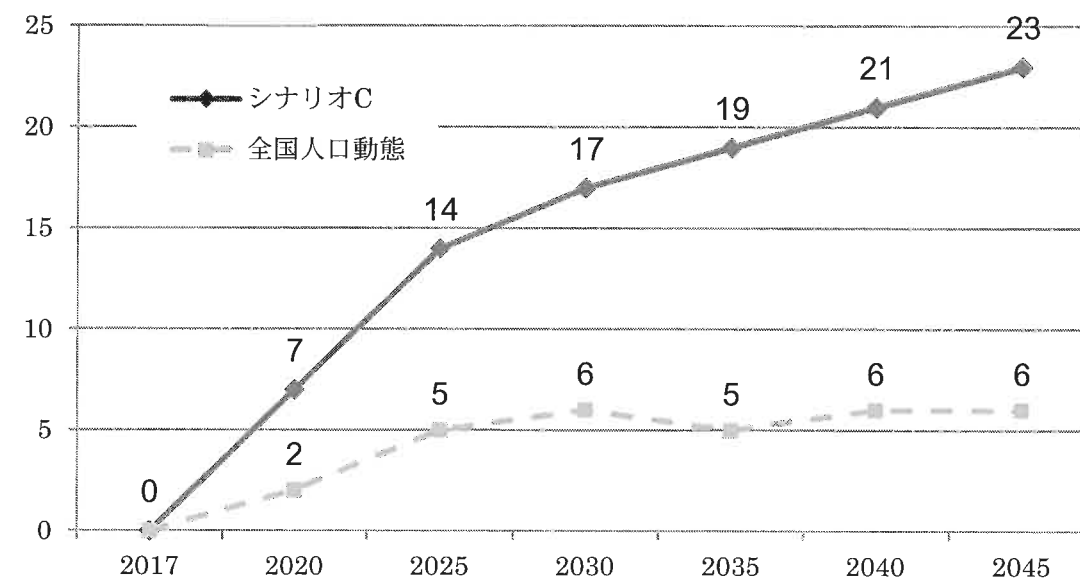
〈肺がん〉

シナリオCでは、2045年には年間約490人の新規入院患者の増加が見込まれることに対し、全国人口動態では年間約40人の増加に留まると見込まれる。



〈循環系疾患+肺がんの必要病床数〉

シナリオCでは、2045年に23床程度必要になることが見込まれることに対し、全国人口動態では、6床程度となる。



4 調整会議等の意見を踏まえた見直し案

統合再編新病院の病床規模は、一般病床を現行の地域包括ケア病棟を除く 544 床とし、これに精神病床 8 床を加えた 552 床に見直す。

【現行】				【統合再編新病院】		
許可病床	稼働病床	一般病床		許可・稼働病床	一般病床	精神
		急性期	地域包括			
657床	593床	544床	49床	552床	544床	8床

【見直しの考え方】

- ① 当該地域は、他地域に比べ患者数が大幅に増加すると見込まれるエリアである。
- ② 増加する患者に対しては、高度急性期・急性期医療を担っている複数の医療機関とともに対応する。
- ③ 統合再編新病院が担う増加患者は、病床利用率を 90%程度に上昇させることで、一般病床 544 床で対応可能となる。
- ④ なお、統合再編新病院の運用については、変化の激しい医療環境にあわせ、地域の医療機関とリアルタイムかつ柔軟に意見交換しながら進めていく。